

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【城南小・中・中等教育学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	「授業中、分からないことがあったとき、先生に聞くことができますか。」という質問に対して、5年生では市平均より10ポイント高い結果となった。その他の学年では市平均と同等の結果となった。このことから、次年度は日課を見直し、授業で分からないことがあったときにすぐに教員に質問できるようにする。
思考・判断・表現	話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていている児童が多い、話し合い活動を通して理解を深めていく授業を展開していく。 「読書は好きですか。」という質問に対して、低学年では9割が肯定的な回答だった。しかし、学年が上がるにつれてその割合は減少する傾向にあるため、どの学年でも図書室を有効に活用しながら読書量を増やすように取り組む。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> どの領域においても、市平均より低くなっており、算数においては、図形の領域に課題がある。 <指導上の課題> 自ら課題をもって学習に取り組めるようにする。	⇒ 「ドリルパーク」「スタディサプリ」を活用し、基本的な計算等の反復・習熟に取り組む【週3回の学習タイム】。その際、個人面談を行い、個別に学習課題を考えたたり、家庭とも連携を図ったりする。【学期に1度】。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語の「書くこと」の正答率が低く、算数でも記述式の正答率が低い。 <指導上の課題> 観点を示し、思考のプロセスを授業の中で評価する。	⇒ 児童が課題に取り組む際に、評価の観点を示し、ミライシードのオクリンク機能等を活用していく。【書く活動時】 読書にも力をいれ、本をたくさん読むことで、思考力・判断力・表現力を高めていく。【週に1度の朝読書】

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	B	① 週3回「学習タイム」を朝の時間に設け、児童が自己の課題を把握し、主体的に学習に取り組むことができるようになった。 ② 「授業で学んだことを他の学習に生かしていますか」の項目では、5・6年生の肯定的な回答がいずれも90%を超え、市平均より3ポイント以上上回った。 ③ 児童との面談の話を通して、児童自身が自己の学習の成果と課題について把握し、学習タイムに生かすことができた。保護者との面談の際、家庭での学習に活かしてもらうように伝えることができた。
思考・判断・表現	B	授業では児童が課題に取り組む際に評価の観点を示し、一人一台のタブレットでミライシードのオクリンク機能等を有効に活用することができた。また、校内研究授業の際にタブレットの使用方法について共有することができた。 研究授業を通して、授業者、参観者ともに研究主題にあった授業の理解を深めることができ、指導力の向上につながった。 今後も思考力・判断力・表現力を高めるために、図書室の利用や読書量をさらに増やす必要がある。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	算数では、昨年度課題がみられた「図形の領域の問題」において、類似問題の経年での比較より、昨年度は、全国平均-4.8ポイントだったのに対し、本年度は、全国平均+2.4ポイントとなり正答率の向上がみられた。 また、「数と計算の領域の問題」においては、昨年度は-8.7ポイント、今年度は-6.7ポイントと依然として課題となっている。
思考・判断・表現	国語では、昨年度課題がみられた「話すこと・聞くこと」において、類似問題の経年での比較より、昨年度は、全国平均-7.2ポイントだったのに対し、本年度は、全国平均+2.4ポイントとなり、かなり正答率の向上がみられた。ただし、「書くこと」-8.8ポイント、「読むこと」-7.9ポイントとなり依然として低い正答率となっている。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	6年生の算数で、「基準量と比較量に着目し、式に合う問題を選ぶことができる」という問題について、市平均正答率を4ポイント以上上回ることができた。また、3年生の国語の「話すこと・聞くこと」の分野で市平均を上回ることができた。朝の読書タイムやお話玉箱等の読みかせ、読書貯金等の取組により児童の読書量が「増え、成果がでたもの」と考えられる。
思考・判断・表現	昨年度より6年生の各教科の偏差値がアップしていた。また、算数の図形の問題に関して、市平均正答率を0.3ポイント上回ることができた。学校研究で取り組んでいる学習タイムや個別面談等で自分の課題を自分で見つけ解決していく学習の成果が出てきたと考える。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	「ドリルパーク」・「スタディサプリ」を活用し、基本的な計算等の反復・習熟に取り組んでいるが、個々の児童の取組の状況を把握できていなかった。	「ドリルパーク」・「スタディサプリ」を活用し、基本的な計算等の反復・習熟に取り組む【週3回の学習タイム】。その際、個人面談を行い、個別に学習課題をえたり、家庭とも連携を図ったりする。【学期に1度】に加え、学習活動の足跡残し児童の意欲向上の手立を充実させる。
思考・判断・表現	C	ミライシードのオクリンク機能等を活用している。 読書の時間に読む本を選ぶという児童の実態がある。	児童が課題に取り組む際に、評価の観点を示し、ミライシードのオクリンク機能等を活用していく。【書く活動時】 読書にも力をいれ、本をたくさん読むことで、思考力・判断力・表現力を高めていく。【週に1度の朝読書】に加え、事前の本を選び、読書の時間に、読む時間を確保し、読書貯金に記録を残す。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)